

自衛隊統合防災演習（JXR）に参加

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之¹等陸佐）は、7月5日（火）から7月8日（金）にかけて、静岡県危機管理センター（静岡県庁内）において実施された平成28年度自衛隊統合防災演習（略称：28JXR）に参加した。

28JXRは、南海トラフ巨大地震の発生を想定した災害応急対策要領について、静岡県を含む関係する各県と全自衛隊で対処要領を演練し、南海トラフ地震対処計画の実効性を実動検証するために行われた。

本訓練の中で、静岡地本は、静岡県庁への連絡調整要員（県庁LO）派遣訓練と本部における指揮所訓練を実施した。派遣訓練では発災後、速やかに県庁LOを派遣し、付与される様々な被害想定に対し静岡県内の災害派遣を担当する第34普通科連隊（板妻）等と連携し、県庁からの要望事項や被害状況の引き継ぎ要領等を検証・習熟するとともに、上級部隊へ報告し情報を共有した。

また、指揮所訓練では、付与される状況をもとに被害状況について情報処理システムに入力し、上級部隊等と情報を共有するなどITを活用した防災態勢の能力向上を図った。

静岡地本は、今後も静岡県庁に最も近い自衛隊として、本訓練の教訓を活かすとともに、県庁との連携を密にして、各種事態等の対応に万全を期していく。



掃海艦「はちじょう」の希少性を体感

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之¹等陸佐）は、7月8日（金）、掃海艦「はちじょう」の体験航海に募集対象者を引率して参加した。

乗艦するとまず、乗組員より艦の特性が説明された。掃海艦「はちじょう」は、海底の深々度に敷設された機雷を排除できる国内唯一の掃海艦であり、磁性による発見を避けるため木造建築された船体の規模は同種の中で世界最大級となる。

また、この艦にのみ搭載された機雷処分具S17型をはじめ、各種の装備・機能についても丁寧な解説を受け、参加者は掃海艦が果たす重要な任務・役割について理解を深めていた。

希少な特性を備えた掃海艦の体験航海は、横須賀港を出港しアクアラインやスカイツリーを横目に千葉県埠頭へ入港するものとなり、参加者は掃海艦について学ぶとともに、海風を受け自然を間近に感じながら眺望する東京湾の景色を大いに楽しんでいた。

今回の体験航海は「はちじょう」が属する第一掃海隊にとって今年7月1日編成からの記念すべき第1号となり、また、来年をもつてこの艦は廃艦予定であることから、多くの面で稀な乗艦機会となったことに参加者はとても感動している様子であった。

